

逆打支柱に用いるノンダイアフラム柱梁接合部工法

「逆打支柱に用いるノンダイアフラム柱梁接合部工法」とは、地下部で逆打支柱を芯鉄骨としたSRC柱とS梁との柱梁接合部において、鉄骨部の局部耐力とコンクリート部のコーン状破壊耐力と支圧耐力による曲げ抵抗を考慮することで、ダイアフラム等による補強を不要とする工法です。（一財）日本建築総合試験所の性能証明を平成28年7月に取得しました。（GBRC性能証明 第16-11号）

SP P0-1 NSCarbolex
Edition Series

特長

●ダイアフラムの省略

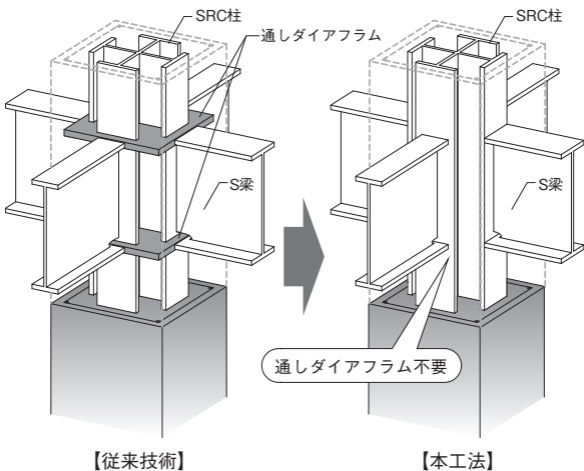
鉄骨部とコンクリート部の耐力を適切に評価することで従来より高い接合部耐力を期待でき、ダイアフラム等が不要になることで鉄骨製作コストの削減と工期の短縮が可能となります。

●建方精度の要求緩和・施工品質の確保

ダイアフラムと梁の溶接位置が鉛直方向にずれるといった不具合が生じないため、建方精度の要求緩和や容易な施工品質の確保が可能になります。

●設計自由度の増大

梁接合位置を自由に変更できるため、床レベルの詳細検討を待たずに製作図の作成や発注が可能となります。また、施工中の設計変更等による床レベルの変更にも柔軟に対応することができます。



適用条件

●適用対象とする架構

- ・地下部で靱性能を期待しない架構
- ・「逆打支柱鉄骨を芯鉄骨としたSRC柱」と「H形断面のS梁」との柱梁接合部（梁に耐震壁が取り付けられる場合のみSRC柱とSRC梁との柱梁接合部も含む）

●柱芯鉄骨の形状：十字形断面、H形断面

●柱芯鉄骨および梁の鋼材規格

- ・400N/mm²級：SN400B,C SM400A,B,C
- ・490N/mm²級：SN490B,C SM490A,B,C
BT-HT325B,C NSYP345B

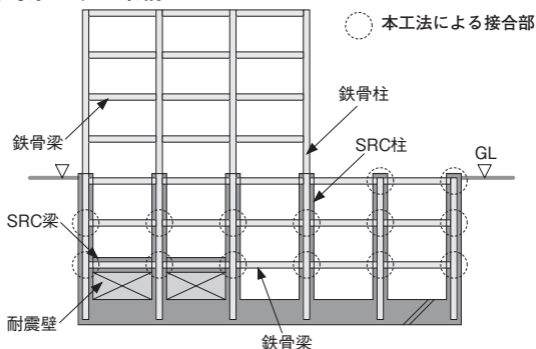
●コンクリートの種類

- ・普通コンクリート（設計基準強度F_c：21～60N/mm²）

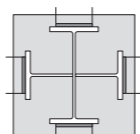
●その他

- ・柱芯鉄骨のフランジに対するコンクリートのかぶり厚さ：100mm以上
- ・接合部パネルの軸力比制限や柱の変形の制限等、設計上の留意点がありますので、採用にあたっては事前にご相談ください。

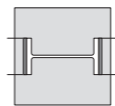
適用対象とする架構



柱芯鉄骨の形状



【十字型断面】



【H形断面】

ご注意とお願い

本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を説明するものであり、「規格」の規定事項として明記したもの以外は、保証を意味するものではありません。本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますので、ご了承ください。また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、担当部署にお問い合わせください。本資料に記載された内容の無断転載や復写はご遠慮ください。本資料に記載された製品または役務の名称は、当社および当社の関連会社の商標または登録商標、あるいは、当社および当社の関連会社が使用を許諾された第三者の商標または登録商標です。その他の製品または役務の名称は、それぞれ所有者の商標または登録商標です。